

こどもの城 ニュース



2012・1・1 No. 237

発行 / [こどもの城] 広報課 ☎ 03-3797-5674
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-1
http://www.kodomo-no-shiro.jp

東京都写真美術館
所蔵作品から

植田正治さん(うへだ しょうじ / 1913-2000年)にとって、写真は「記録するもの」というより「創造するもの」でした。戦争中に報道写真のようなものばかりがはやったときも、植田さんは「早く自由に写真が撮りたい」と思っていました。

この作品は、故郷の鳥取県の砂丘で撮影されたものです。みんなをわざと離したり、広い空間をつくり、とても不思議な雰囲気があります。たとえば、この子どもたちが“花”や“石ころ”だったとしても、同じように不思議な写真になるかもしれません。

“子ども”をとおして、なにか別のものを表現しようとした植田さんは、〈写真で遊ぶ〉ことが大好きだったのです。

この作品は「こどもの情景 原風景を求めて」展(平成23年12月4日終了)に展示されました。展覧会カタログは東京都写真美術館4階図書室(利用無料)でもご覧いただけます。
□東京都写真美術館 □ http://www.syabi.com ☎ 03-3280-0099

植田正治「白い風」より1981年



お父さんも いっしょに遊ぼう!

「いっしょにあそぼう!」——休みの日のお父さんに子どもはワクワク。「よし!〇〇してあそぼう!」とすぐに遊んでくれるお父さんいれば、「なににあそぼうか?」と考えてしまうお父さんもいるかもしれません。子どもといっしょに遊ぶ——難しく考えることはありません。気軽に、簡単なことでいいのです。さそわれるままに、子どもの気持ちになっていっしょに過ごせばいいのではないのでしょうか。子どもの表情やしぐさ、動きなどを見ていると、いろいろな発見やおどろきがあると思います。一日一日、成長していく姿を感じることができます。

「じゃあ、なににあそぼうか?」。「こどもの城」では、たくさんのお父さんが、お父さんパワーを生かして、いろいろな遊びを楽しんでいます。

子どもといっしょに楽しむプログラムがいっぱい

〈イクメン〉〈子育てパパ〉〈父親の子育て〉などの言葉を新聞・雑誌、テレビなどでよく目にするようになりました。核家族化が進み、共働き家庭も多くなった今、“男女共同参画”への理解が進むなかで、お父さんが家事や育児へ参加する場面が増えてきました。

〔こどもの城〕が開館した26年前には、多くのお父さんはいすすわって、子どもとお母さんが遊ぶ姿をながめていました。最近は、いろいろなプログラムに参加して、子どもといっしょに遊びを楽しむお父さんが多くなってきました。



〔こどもの城〕には、子どもといっしょに遊びたいというお父さんのために、“おすすめプログラム”を集めた「お父さんのあそび子育てプログラム」があります。特別なプログラムだけでなく、ふだんの活動のなかにも、お父さん(もちろん、お母さんも)と子どもがいっしょになって楽しめる“あそびのプログラム”がたくさんあります。

お父さんの“とくい”を生かして遊んでみる

運動がとくいなお父さん、機械いじりならまかせておけというお父さん、工作が大好きなお父さん——〔こどもの城〕のいろいろなところで、お父さんの“とくい”なことを生かして、子どもと楽しく遊んでいます。子どもたちも、いっしょに遊んでくれるお父さんの姿をみて、うれしそうに顔をしています。

子育て支援に取り組んでいる小児保健のスタッフは、「お父さんの好



“ガキ大将”のころを思い出してスポーツ遊び

「ヨイショ」と、お父さんの声。同時に「キャッキョ」と笑う子どもの声。お父さんの体をよじ登ってかたまできた子どもを、体のまわりをぐるっと回しながら、床に降ろしていきます。お父さんならではのダイナミックな動き。体育室で行われた「お父さんと運動あそび」の一場面です。

お父さんが子どもころの遊びを教えてもらって、みんなで遊びました。お父さんをおににした「けいどろ」や「かんけり」に、子どもたちは大はしゃぎです。「お父さんはけっこう教えるのが好き」と体育スタッフ。“ガキ大将”のころを思い出しているのかもしれません。

土・日曜日、祝日に行われている運動遊びのプログラムのなかでも、おりにふれて、親子でふれあって遊ぶことができます。

“機械いじり”は、まかせておけ!

身の回りの電化製品を分解してみる「機械の中を見てみよう」(小学生ラボ)。身近に使っている“機械”の中が、どのようになっているかを、こわれてしまった機械を分解して調べてみます。お父さんといっしょにプリンターを分解していました。ドライバーを使ってネジをはずしていきますが、どうしても回らない固いネジが……。ここはお父さんの出番。グッと力を入れると、簡単に回って、はずすことができました。機械に強いお父さんといっしょに、あきらめなく最後まで分解していました。はずした歯車やお気に入りの部品は、“宝物”に。なかには、熱中してドライバーを放さないお父さんもいました。

「小学生ラボ」(毎月1回、土・日曜日に開催)は、小学生以上の子どもを対象にしていますが、親子で楽しむ姿も……。

きなこと、とくいなことなかに、子どもの好きなことも必ずあります。〈イクメン(育men)〉を、家事や子育てをする父親というように考えるのではなく、サッカーや釣りなど父親が好きなことを子どもといっしょに楽しむことも〈イクメン〉と考えていいのではないのでしょうか」と話します。

お父さんは、子どもの笑顔を見ようといういろいろなことを考えるのかもしれませんが、まずは、お父さんが好きなことを、無理のないように子どもといっしょに遊んでみてはどうでしょうか。

お父さんのくつ、わたしのくつ

造形スタジオの親子コーナーでは、クシャクシャにもんだ色画用紙を足にかぶせて、自分の足の大きさにあわせてくつを作る「ドカドカくつ」。親子それぞれに作ります。大きなくつと小さなくつができたなら、いろいろな色や厚さの紙などを使って、自由にかざりつけて、オリジナルのくつを作ります。「お父さんの足、大きい!」「そんなに小さな飾り、はさみで器用に切るなあ」。そんなことを話し合いながら、“ドカドカくつ”を作っていきます。お父さんは子どもが作っているくつを、子どもはお父さんの作っているくつをチラチラ気にしていました。

造形スタジオの「親子コーナー」は、親子で造形遊びを楽しむことができます。



家族の“WA”からみんなの“WA”へ

子どもは音楽遊びが大好きです。音楽ロビーでは生バンドの演奏に合わせて、親子のふれあい音楽を楽しむ“あそびでつくる家族のWA!”が行われました。指と指で作るちいさな“WA”から、親子みんなで手をつないで作る大きな“WA”へ。最後はたがいに、くすぐったりつまんだりしてふれあい遊びを楽しみます。

つぎは、音楽ロビーいっぱい広がって、みんなで大きな“WA”に。縮んだり広がったりして遊んだ後は、子どもだけで“WA”を作り、電車のように進みます。行く手には、お父さんお母さんが作る、ふわふわの布でできた、たくさんのトンネルがまっています。

音楽ロビーに集まった家族みんなでお楽しみプログラム。親子の“WA”から、家族と家族の“WA”へ広がっていく、幼児から参加できる“きずなのプログラム”です。

音楽ロビーでは、親子で楽しめるいろいろな音楽遊びを行っています。



各地に〈父親の子育てサークル〉が生まれている

保育所の送り迎えや学校行事などをきっかけに、お父さん同士の交流がはじまる〈パパ友〉。つながりが広がって〈父親の子育てサークル〉へと発展するケースも。児童館・児童センターや子育て支援センターの呼びかけでもできることもあります。交流会やイベントなどとおし、子育てを支援するだけでなく、地域とのつながりも深める活動は、多くの注目を集めています。

〔こどもの城〕でも、東京周辺で活動している〈父親の子育てサークル〉に声をかけて「おとうさんのあそび市」を平成23年11月15日に開催しました。6つのグループが、遊びのプログラムを持ち寄り、〔こどもの城〕のスタッフも参加して、お父さんたちが中心となって運営する“遊びの市場”になりました。参加した〈父親の子育てサークル〉は、たがいに情報を交換して交流を深めると同時に、多くの人にその活動をアピールしました。

あけましておめでとうございます
本年も〔こどもの城〕をよろしくお祈りします

FUJITSU

あなたを、まんやかに。

もっとワクワクできるように。もっとお役にたてるように。
私たちの技術や製品は、つねに使う人を想像して進化してきました。
富士通がめざすICTは、そう、人がまんなか。
つくりたいのは、あなたのための明日です。

shaping tomorrow with you

夢をかたちに



「全国児童館・児童クラブ 北海道大会」終わる 北の大地から“元気”はっしん!!

第 11 回「全国児童館・児童クラブ北海道大会」が、11 月 22・23 日に札幌市で開かれ、全国から児童館関係者約 1,000 人が集いました。主催は、全国児童厚生員研究協議会、(財)児童健全育成推進財団、北海道児童館連絡協議会、(財)札幌市青少年女性活動協会。[こどもの城]ほかが共催。
この大会は、全国の児童館・児童クラブの有志が集まって、平成 7 年 (東京大会) から 1～2 年に

1 回開催。児童館の活性化をめざして、自らの研鑽のための多様な情報交換、交流、児童館活動の PR などを行っています。
今回は「こころひとつに 北の大地から“元気”はっしん!!」がテーマ。子どもを取り巻く環境が変化していくなかで、豊かな体験ができる遊びの場や、子育て家庭が安心して利用できる地域の拠点が求められています。そこで、人と人がつながり、心が通い合う児童館・児童クラブをめざそうという趣旨で設定されました。

大会では「児童館のもつ可能性」「地域とのネットワーク」「遊びの情報交換」など、10 の分科会が開かれ、意見交換や遊びの体験をとおして、子どもの育ちについて学び合いました。
分科会「“親育ち支援”親が育てば子ども育つ!! ～求められる親支援とは～」では、児童館・児童クラブ職員の“親育ち支援”について考えました。まずグループに分か

れて、日常の活動で、親とどのようにかかわっているか話し合いました。かかわり方に迷ったこと、それぞれの児童館でのかかわり方などを話題に出し、話し合いを深めました。
各グループで話し合ったことを発表した後、コーディネーターの講義を聞きました。それぞれのグループで取り上げられた内容は、多くの参加者にとって共感できることが多く、有意義な分科会となりました。



分科会では全国の人と意見を交換

これから児童館は、いろいろなところと連携を取りながら、地域で子育てをしていく「子育て支援の拠点」とな

ることが求められています。さまざまな子育て支援のなかでも、“親育ち支援”は重要な課題だと再認識しました。

【全国児童館おりがみ作品展巡回展開催日程】

- 札幌市青少年女性活動協会 (平成 23 年 12 月 10 日～17 日)
- わくわくグランディ科学ランド (12 月 23 日～平成 24 年 1 月 22 日/栃木県)
- ふじみ野市立児童センター (1 月 27～31 日/埼玉県)
- 守谷市市民交流プラザ 北守谷児童センター (2 月 5～19 日/茨城県)
- 香取市山田児童館 (2 月 11～21 日/千葉県)
- 京都市久我の杜児童館 (3 月 2～13 日)
- 伯方児童館 (3 月 2～13 日/愛媛県今治市)
- ぐんまこどもの国児童会館 (3 月 24 日～4 月 8 日)
- 上里町神保原児童館 (4 月 14～22 日/埼玉県)
- 豊橋市子ども未来館 (4 月 28 日～5 月 6 日/静岡県)
- キッズランド児童館 (5 月 14～25 日/鹿児島県南さつま市)
- 明照児童館 (6 月 4～7 日/三重県伊勢市)
- 京都市大塚児童館 (6 月 15～16 日)
- 京像ユリックス (6 月 23 日～7 月 1 日/福岡県京像市)

24 人の中高生世代が集まり「ティーンズカフェ 2011」開く

「なりたい自分とは?」「学校は必要?」「大切なのは学歴?」のテーマでグループごとに自由に話し合う

中高生世代が集まり、本音や悩みを仲間と語り合う「ティーンズカフェ 2011」が、12 月 11 日に[こどもの城]で開かれました。12 歳～17 歳の中高生世代 24 人が参

加しました。
“カフェ”のようにおしゃべりしやすいリラックスした場で、自分たちの気持ちを素直に話し合おうと企画されたもので、事前募集



の高校生スタッフと大学生スタッフが中心となって、運営に当たりました。
数人でグループを作り、テーブルを囲んで、「なりたい自分はどんな人?～よ

い子でいたいと思ったことある?」「学校は本当に必要?～なんで学校に行くのか考えたことある?」「今、大切なのは学歴?～私のよさは成績だけじゃない?」をテーマに話し合い。最後にグループで話し合ったことを報告しました。

参加者からは「一つでも楽しいことがあれば学校に行きたいと思える」「学歴があればいろいろなことができる。免許証といっしょ」「相手と接する機会を増やせば、もっと仲良くなれるはず」といった意見も飛び出し、和やかな中にも真剣な話し合いとなりました。
「違う年齢の人たちや違う環境の人たちと、本音でさまざまな意見を交わすことができ、とてもためになった」と、参加者の一人は話していました。

【こどもの城】の節分 春を迎える「オニは～外」

[こどもの城]では、古くから伝わる季節の行事(伝承文化)を子どもたちに伝えていこうと、行事の由来や意味を遊びに取り入れて“季節”を感じてもらえるプログラムを行っています。

だまのように遊べる鬼の人形『節分ころっと!オニカップ』。クリエイティブコーナー(小3以上)は、段ボールとトレーシングペーパーを使って鬼の形の『節分鬼だいて』(1月14、15、21、22、28、29日)を作ります。

■こども歳時記 節分 (1月13日～2月3日/造形スタジオ)

※1月16、23、30日は休館
親子コーナーは、紙コップと丸めたカラーペーパーを使い、けん



親子コーナー「節分ころっと!オニカップ」(左)、クリエイティブコーナー「節分鬼だいて」(右)

1月の【こどもの城】の活動から

- 開館時間
火～全曜日 12時30分～17時30分
土・日曜日・祝日 10時～17時30分
- 1月の休館日
1・2・10～12・16・23・30日
電話: 03-3797-5666
http://www.kodomono-shiro.jp
- ※1月9日までは「冬休み特別期間」の特別プログラムになります。

音楽ロビー (4階)

音楽の楽しさがいっぱい音楽ロビー。曜日ごとにさまざまなプログラムを行っています。
【毎 日】うたってハッピー (1～3歳/日)
ストリートオルガンをやってみよう (1～2歳/日)
【火曜日】みんなでライブ! (15時)
ほんわかおんがくタイム (16時15分)
【水曜日】すいようパチパチパーク (14時30分)
【木曜日】木曜なかよし広場 (13時45分)
みんなの楽器屋さん (15時)
うらうらタイム (16時)
【金曜日】みかんちゃんスのオパオパソバ! (14時15分)
【土曜日】音楽あそびマーケット (13時30分)
宅配!ミュージックボックス (14時)
土曜日の不思議な映像実験室 (15時30分)
【日曜日】みんなであそぼう音楽広場 (13時30分/1月15日祝日)
めずり楽器にチャレンジ (14時)
Oshiro Band ミニライブ (14時45分、16時)

◆ポ・ア・ボコ土曜音楽倶楽部 (土曜日 14時30分～15時20分)

1月14・21・28日 ジェンベ (小3～)

B スタジオ (4階)

1月15日
手作り楽器のワークショップ まわす鳥笛
13時30分～14時、15時30分～16時
ペットボトルキャップを使った鳥笛。糸の先につけて回すと、鳥の鳴き声(?)が。各回30人(小学生以上)。15分前から音楽ロビーで受け付け。
1月22日
不思議な映像実験室 絵が動いて見えるおもちゃの展示とワークショップ
12時30分～17時
絵が動いて見えるおもちゃ(視覚官能具)の、さわって、見る展示とワークショップ。
ソーマドロップを作ろう (13時30分～14時30分)
はたはたアニメを作ろう (15時30分～16時30分)

◆おもちゃビデオ館 (金曜日 14時45分～)

2～4歳くらいの子供向け作品を選んで上映。「おはなし絵本」作りのコーナーも。
《日本と世界の絵本》
1月13日 すいかのたけ/海がにがてな海賊の子ども
20日 ねこざかな/お花やさんになりたいたいのマキム
27日 おどるねこざかな/素敵な贈り物の箱

◆なかよし映像広場

スクリーンに映し出された「映像」とふれあいながら遊びます。乳幼児親子対象。
1月13・27日 13時45分～14時15分

■節分会 だまめまき大会 (1月28・29日/プレイホール)

節分の由来を“劇仕立て”でわかりやすく伝える、毎年恒例のプログラム。最後には、集まった子どもたち全員で『鬼は外、福は内』と豆まきをして春を迎えます。各日とも14時30分から。

子どもたちがテレビ番組を作る「ピコピコドロッチャテレビ」(1月21・22日/体育室)

〈ディレクターメンバー〉募集中

子どもたちが、子どもたちの手でテレビ番組を作る「ピコピコド

ロッチャテレビ」が1月21・22日に、体育室で開催されます。アイデアを出し合い、クイズやドラマ、ニュースなどいろいろな番組を作り、会場でライブショーを行います。その様子は、インターネットをつうじて全世界に発信されます!

開局にあたり、当日遊びに来る子どもたちの見本となるデモ番組を作ったり、本番の準備や運営を手伝ってくれる〈ディレクターメンバー〉を募集しています。
□対象・定員 □小学校5年生以上10人(先着順)
□活動日 □1月8、15日が準備、

保育活動展～こどももよう パートⅨ 2月1～12日/ギャラリー

作品をとおして子どもたちの成長を紹介

「幼児グループ」(4・5歳児)を中心に、「保育クラブ」の2～5歳児をふくめた[こどもの城]の保育活動を紹介する「保育活動展～こどももよう パートⅨ」を、2月

21・22日が本番(計4日)
□お申し込み・お問い合わせ □事業企画部「ドロッチャ係」(03-3797-5675)まで

とができます。

★「遊び」から理解する子どものこころの発達」テーマに研修会を開く

[こどもの城]指導者向け研修会「「遊び」から理解する子どものこころの発達」が、12月11日に行われ、全国の児童館や保育所から、44人が参加しました。

前半は、「子どもの発達～こころとあそび」をテーマに、こどもの城小児保健部の北原知典(臨床心理士)が、遊びの持つ意味と役割、遊びをとおした心の発達の様子、遊びから見る心のありようなどを講義。

後半は井口由子(臨床心理士)も加わり、事前に参加者から寄せられた「乱暴な子にはどう対応すれば良いか」「周囲に無関心・無表情な子がいるので心配」などの質問をもとに、現場での悩みや気になる子どもへの対応方法などについて話し合いました。

平成 24 年度「保育クラブ」会員を募集します

保育研究開発部では平成 24 年度「保育クラブ」の会員を募集します。「保育クラブ」は、2～5 歳児を対象に、登録して利用する会員制の保育プログラム。集団遊びの場の提供、親の時間を確保する〈保育プログラム〉のほか、親子遊びや家族同士の交流などを楽しむ〈家族プログラム〉、子育ての周辺情報を提供する〈情報提供プログラム〉— を利用できます。
募集要領は以下のとおり。

□募集対象 □2～5 歳児 (平成 18 年 4 月 2 日～22 年 4 月 1 日生まれ)
□募集要項 □1 月 7 日から窓口で申し込み用紙を配布します。詳細は、保育研究開発部窓口にお問い合わせください。

なお、〈保育プログラム〉の見学会を 2 月 1、2、3、7、8 日(いずれも 12 時～13 時)に開催。要電話予約。
□お問い合わせ □保育研究開発部「保育クラブ」係 (03-3797-5669)。

■青山劇場 Tel. 03-3797-5678 http://www.aoyama.org/

= 8,500 円、B 席 = 3,500 円、ディレクターズシート = 11,000 円 (問) 03-3490-4949

●CHESS in Concert
▽1 月 26～29 日▽S 席 = 11,000 円、A 席 = 8,000 円、B 席 = 5,000 円 (問) 03-3503-5815

吉 山 劇 場

●第 1 回こどもの城ファミリーミュージカル「シーク・シーク・シーキングストーリー I」～なな色ぼうけん物語～
▽1 月 8～22 日▽S 席 = 11,000 円、A 席

★76 人が参加し小児保健セミナー

第 26 回 [こどもの城] 小児保健セミナー「多様化する親子へのかかわり方」が、11 月 26 日開かれ、全国の児童館や学童保育所、保育所などから 76 人が参加。

俊成病院小児科医師、多田光さんの「親の話を聴き方・答え方」では、現代の家庭のあり方を踏まえ、特に災害に遭った家庭や虐待の疑われる家庭への援助について触れ、支援者は一人で抱え込まずにチームで地域と連携することの重要性を訴えました。

NPO 法人日本サービスマナー協会の中川奈美さんの「コミュニケーション・マナー」では、よりよい人間関係を作り出すためには笑顔とアイコンタクトが大切と、実技も交えて体験。

聖徳大学人文学部教授、井村たかねさん(臨床心理士)は、家庭裁判所での経験から、「離婚を経験した親子への援助」のテーマで、子どもと同居している親に対しては気持ちを冷静に保つよう支援すること、子どもに対しては意向をくみながら、面会交流なども含めて長期にかかわっていくことが大切であることなどを話しました。

1 月から始まる [こどもの城] の講座・クラブ受講生募集

詳細は、総合案内課講座・クラブ係へ 03-3797-5666

▽1 月 3～9 日▽2,800 円 (問) 03-3797-5678

●ベニバラ魂 vol.9 「Mr. 教授の危険なマスカレード」
▽1 月 12～15 日▽5,000 円(当日 = 5,500 円) (問) 03-5444-6966

●GULF - ガルフ -
▽1 月 20～25 日▽7,000 円 (問) 0570-06-9939

●中西俊博 Leapingbow 2012 「Reel's Trip ～はじめてのひかり～」
▽1 月 28・29 日▽6,000 円 (問) 03-3797-5678



吉 山 劇 場

●ミュージカル「ボニー&クライド」～俺たちに明日はない～
▽1 月 8～22 日▽S 席 = 11,000 円、A 席